

日本アドバンス・ケア・プランニング研究会

NEWS LETTER

Vol.06

2022.11

いつも当研究会へのご支援・ご協力頂き誠にありがとうございます。

今回のNews Letterは、先日開かれました第7回年次大会について掲載致します。

大友宣大会長が感じた事や思い、年次大会の様子について皆様にお伝えしております。

ご一読ください!

■ 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会第7回年次大会を開催して

大会長の挨拶



医療法人財団老蘇会
静明館診療所
大友 宣 氏

日本アドバンス・ケア・プランニング研究会の大会長を終えました。ホッとしたという以外には感想はありません。大会長をするようにと言われてから、どんな大会にするのが良いのかグルグル頭の中で考えていました。今回「人生会議解体新書」と名付けて大会を実行しました。私自身、ここ数年、アドバンス・ケア・プランニングに様々な場面で関わって来たのですが、いつもいろんな疑問が出てきます。このコロナ禍になってからも、アドバンス・ケア・プランニングなどと言っている場合ではないような状況がたくさんあったように思います。コロナ禍の騒ぎがおさまって来れば、また、アドバンス・ケア・プランニ

ングが大きく取り上げられる時期が来るだろうと考えていました。ですから、今回人生会議を解体したかったのです。人生会議を、アドバンス・ケア・プランニングを再出発させるためには根本を考える必要がありました。大会前から井伏鱒二の訳文が頭の中で反芻されています。

この杯を受けてくれ

どうぞなみなみ注がしてくれ

花に嵐のたとえもあるぞ

さよならだけが人生だ

そう、さよならだけが人生なのです。そしてさよならを祝福することができるように。

第7回 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会 年次大会

朝一番から武蔵国分寺公園クリニックの名郷直樹先生に『私の「人生会議」』と題して講演していただきました。アドバンス・ケア・プランニングに慣れ親しんだ皆さんには天地がひっくり返るような衝撃がありました。次に聖隷三方原病院副院長で緩和支援診療科の森田達也先生に『アドバンス・ケア・プランニングがもやもやする理由と6つの提案』と題して講演をいただきました。これもまた、参加者がふだん慣れ親しんでいると考えている人生会議の概念が解体されるような感覚をもつ内容でした。 ▶ 次ページに続く

▶ 2022年9月10日

▶ オンライン開催

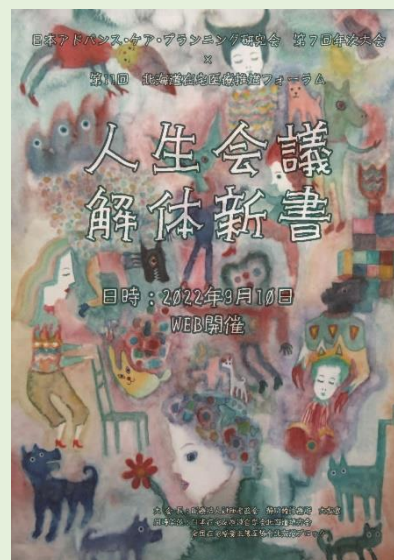
昼休憩をはさんで、シンポジウムがありました。医療法人オレンジグループ代表の紅谷浩之先生からは今までの人生会議の取り組みや、勝手に人生会議などのお話がありました。祐ホームクリニック医師／上智大学グリーンケア研究所客員研究員の井口真紀子先生からは医師へのインタビューをもとにしたアドバンス・ケア・プランニングの考察がありました。しあわせです感謝グループ代表／がんサポ喫茶止まり木店長の久田邦博先生から患者の立場から人生会議を語っていただきました。大会長の太友宣より今回の人生会議解体新書に込めた思いをお話しました。

演題発表は4演題ありました。一題目は人生会議を人づくり、ツールづくり、体制づくりにして地域で取り組んでいる報告でした。二題目はシェアードデザインメイキングのモデルを使って薬剤指導を行った症例報告でした。三題目は外来透析施設での人生会議に関するアンケート結果でした。四題目は関わりが難しかった独居の方の症例報告でした。バラエティに富む演題発表で、それぞれの研究・実践の成果をうかがい知ることができました。

公開講座は『「自分らしい死」とは何か』と題して文化人類学・医療人類学の磯野真穂先生にお話しいただきました。文化人類学からみた医療や人生会議を通して、医療者が考えている「自分らしさ」や「意味」というものが解体されるようでした。

最後のセッションはオンラインミーティング「北海道の在宅ケアネットワークの構築」というもので、北海道の在宅ケアのネットワークづくりに関するミーティングを開催しました。

人生会議解体新書の名に恥じない学会を開催できたものと考えております。この解体された結果を基盤として、宿題として、課題として、本会が取り組むことができれば、日本における人生会議、アドバンス・ケア・プランニングの強固な基盤を作ることができると確信致します。



報告

社員就任のお知らせ

先般の社員総会で入社を承認されました札幌総合法律事務所の弁護士の福田直之と申します。なぜACPIに弁護士が?と思われる方もいらっしゃると思います。

ACPIは、ご本人が主役、ご家族・関係者などが脇役となり、皆で頭を抱えながら主役が人生の最期でいかに輝いて過ごせるかを考える人生劇場であり、本人の意思、自己決定というのがやや軽視されてきた我が国における一種の文化の形成であると考えています。

頭を抱える関係者の1人に弁護士がいることによって、ご本人も、ご家族も、医療・介護・福祉の関係者も、より安心することができ、よりご本人のためになる良いACPができることもあるのではないかと考えています。

そのためには、弁護士の視点からもACPの活動をより広く知ってもらい、当たり前で弁護士がACPIにも関与していけるように、私自身も法律家の担い手の育成などにつとめ、微力ながら本会に貢献をしていければと思っております。

敷居の低さとフットワークの軽さをモットーとしておりますので、何かあればお気軽にお声かけください。それでは皆様、今後お仲間としてどうぞよろしく願いいたします。



札幌総合法律事務所
弁護士
福田 直之 氏



一般社団法人
日本アドバンス・ケア・プランニング研究会

The Japanese Association for Clinical Research on Advance Care Planning

【事務局】〒474-8511 愛知県大府市森岡町7丁目430番地

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部内

☎0562-48-8456 ●E-mail: acp.study.group@gmail.com

The Japanese Association for Clinical Research on Advance Care Planning

ロゴを新しくしました!

